

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	卒業研究		
英文授業科目名	Senior Thesis		
開講年度	2008年度	開講年次	4年次
開講学期	通年	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	8
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科		
担当教官名	C全教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>卒業研究は、研究を体験することを目的としている。その過程において、能動的、継続的な学習能力を養い、また、研究に対する批判的、内省的な思考能力を育成することも目的としている。</p> <p>具体的には研究を体験することによって、問題への接近の方法を理解し、文献調査や実験、理論的な考察などの問題解決の手順を体験的に理解することを目標としている。さらに、研究過程で指導教員や他の学生と議論すること、研究結果を口頭で発表することや論文にまとめることなどを通して、コミュニケーション能力を向上させることも目標としている。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
卒業研究着手条件を満たすことが必要である。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
研究テーマに関連する科目は履修しておくことが望ましい。

<b>【教科書等】</b>
指導教員の指示による。

<b>【授業内容とその進め方】</b>
卒業研究の内容とその進め方は研究室により異なる。

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

秋に予定される情報通信工学実験Cの発表会を兼ねた卒業研究中間発表会と、学年末の卒業研究発表会における発表、および、研究の成果をまとめた卒業論文をもって卒業研究の成績を評価する

### 【オフィスアワー：授業相談】

指導教員の指示による。

### 【学生へのメッセージ】

研究は単なる受動的な学習とは異なる。講義では先人が明らかにしたことを受動的に学習してきたが、研究においては、学問的、技術的に明らかにされていない課題に能動的に立ちむかい、それを解決する。課題をどのように解決するか、解決できるかが明らかでない状態から研究が始まる。

指導教員は、課題の設定やその後の研究において援助を行うだけであり、課題を解決すべく研究を行うのは諸君である。研究の過程で行き詰まったときは、指導教員や研究室の仲間に相談し、議論・検討を重ね、壁を乗り越えてほしい。研究室という環境の中で、研究の厳しさとともに研究の楽しさを体験してほしい。

### 【その他】